

Chu-San-Kan press

チュウサンカンプレス

研究の森から中山間地域を応援します

2013 Spring Vol.8

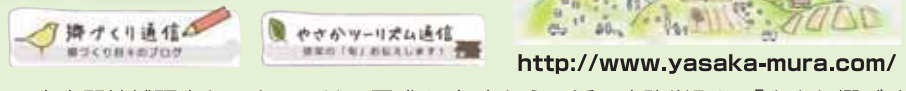


アンケートにご協力ください!! Chu-San-Kan pressでは、より良い紙面を皆様にお届けするためにアンケートを実施しています。アンケートはホームページより記入いただけます。
<http://www.pref.shimane.lg.jp/chusankan/>

やさか郷づくり「まとめの集い」を開催!



弥栄内から約60名、弥栄外から約50名が集まり、会場は熱気に溢れました!



中山間地域研究センターでは、平成21年度から、浜田市弥栄町に「やさか郷づくり事務所」を置き、弥栄にお住まいの方々や浜田市弥栄支所、島根県立大学の先生・学生等と一緒に汗を流し、考え、様々な活動を行ってきました。この「郷づくり事業」は、平成24年度末で完了しました。去る2月24日(日)に弥栄会館で行われた「まとめの集い」では、この4年間で進めてきた「郷づくり」の活動についての振り返りが行われました。

集いには発表者等も含め約140名が参加し、地域の自然を循環活用する知恵や技、それらを活かした弥栄の新たな可能性、地域と一緒に暮らす仲間づくりなどの取り組み、そして、参加者それぞれの弥栄への思いなどを共有しました。

郷づくり事務所は平成24年度末で終わりましたが、弥栄の未来をつなぐ活動はここからまた始まります。弥栄が日々紡いでいく「いま」と未来を、これからもぜひ応援してください。



弥栄の食材を使った漬物やお菓子も並びました。

編集者のつぶやき...

春の訪れを感じるこの季節、Chu-San-Kan press も2回目の春号を迎えました。それではここで1句、「春の訪れ」とかけて『Chu-San-Kan press』と説く。そのころは...どちらも人の心を躍らせるでしょう (@^^@)←本当かあ?? と思ったあなた! 実は書いていた自分も思いました(笑)。そこで編集部では、今回の「何でも情報コーナー」にもありますように、皆さんの率直なご意見・ご要望を募集しています。今後のChu-San-Kan press を皆さんと一緒に作っていきたいと思いますので是非アンケートにご協力ください!!(D・I)

も情報コーナー」にもありますように、皆さんの率直なご意見・ご要望を募集しています。今後のChu-San-Kan press を皆さんと一緒に作っていきたいと思いますので是非アンケートにご協力ください!!(D・I)

次号 特集予告 【情報ステーション】GIS特集



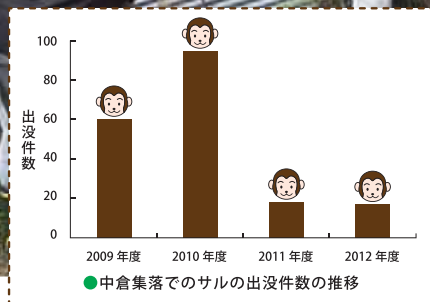
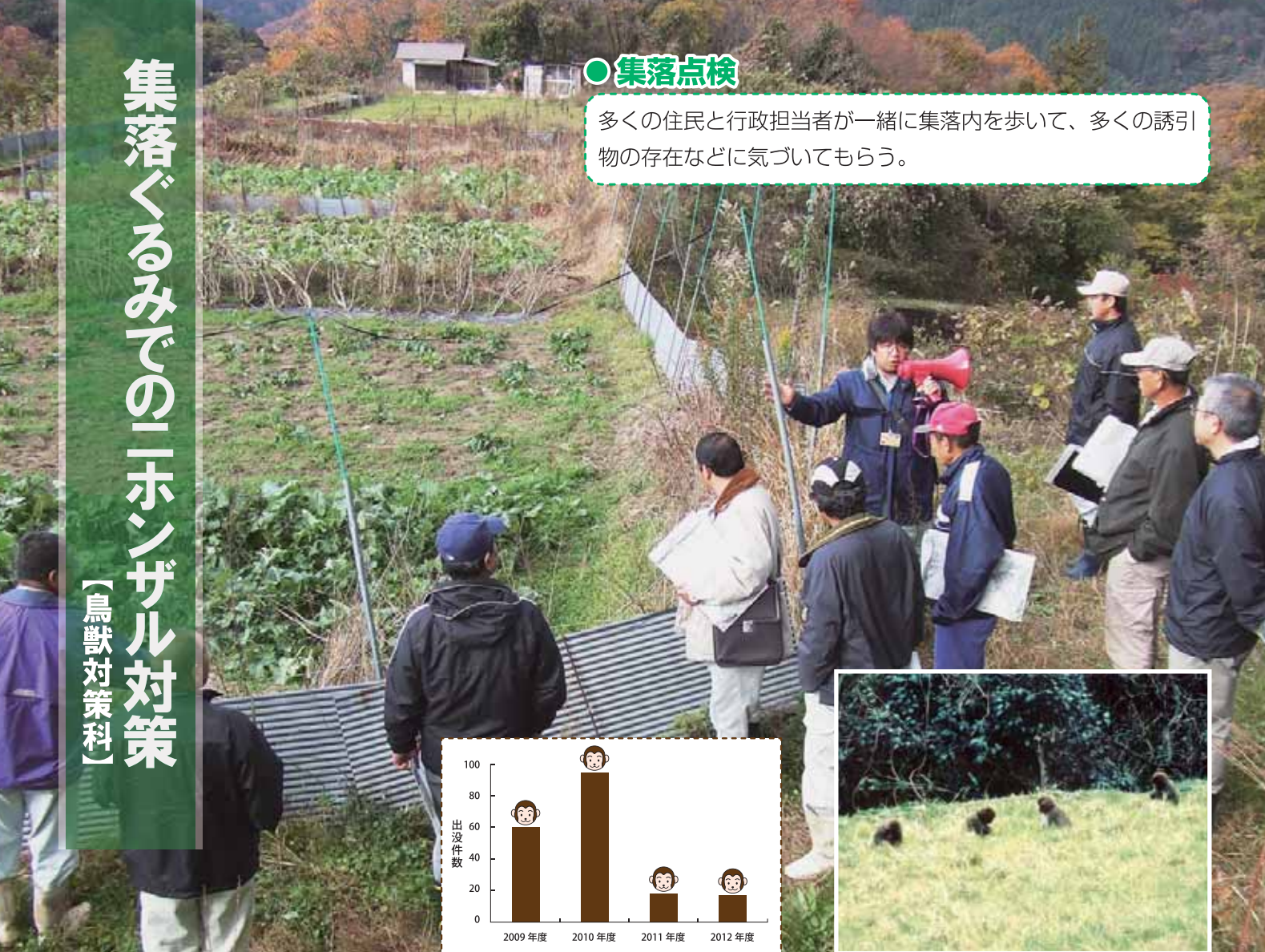
NEW!
管理・経営計画決定!
 【鳥獣対策科】
集落ぐるみでのニホンザル対策
 【特有集】
 【鳥獣対策科】

集落ぐるみでのニホンザル対策

【鳥獣対策科】

●集落点検

多くの住民と行政担当者が一緒に集落内を歩いて、多くの誘引物の存在などに気づいてもらう。



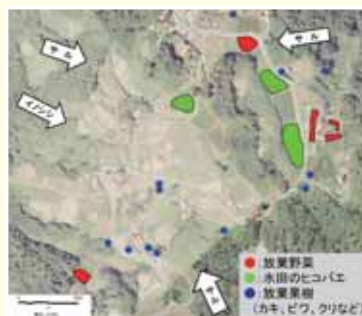
水田のヒコバエ（二番穂）を食べる群れ

●中倉集落の挑戦

島根県の石見、雲南地域では、ニホンザルによる被害金額は減少傾向にはあるものの、農作物や果樹などへの被害が問題となっています。そこで、モデル集落において集落ぐるみのサル対策に取り組みました。モデル集落の川本町中倉集落(16戸)は、65歳以上の住民が半数を占める典型的な小規模・高齢化集落です。集落ぐるみのサル対策は、合意形成がないままに行政主導でスタートすれば、必ずと言っていいほど失敗します。合意形成を図るきっかけとしては、多くの住民と行政担当者が一緒に集落内を歩いて、被害の発生場所や放棄作物の位置などをマップ化する集落点検がきわめて有効です。この集落点検によって、多くの誘引物がサルを集落へ引き寄せていることを住民に気づいてもらうことができるからです。この取り組みは、①集落内での合意形成、集落リーダーの選定、②集落点検、誘引物の除去、緩衝帯の設置(維持管理はボランティアの導入や放牧利用)、③電気柵の設置(被害を受けやすい山際の畑など)、追い払い(銃器と併用したロケット花火の効果が高い)の徹底、④定期的な集落でのミーティングによる住民のモチベーション

の維持、⑤ハナレザルは有害捕獲(銃器)で対応の順序で実施しました。

この取り組みによって、中倉集落への出没件数は、H21年60件、H22年95件、H23年18件、H24年17件と次第に減少して効果を認めています。被害対策の主役はあくまでも集落の住民であり、行政担当者(町役場、県地域事務所)はサポート役となって集落を支援することが重要です。



●作成した集落点検マップ

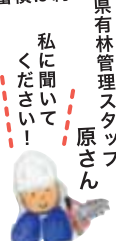
このマップを基にして、サル対策の計画を作成します。

県有林ってなあに？

島根県が管理する森林の総称です。総面積は約1700ha、総蓄積は約339千m³に上ります。

どこにあるの？

飯南町(和志・下来島・頓原・八神)、雲南市(吉田)、邑南町(瑞穂)の県内6カ所があり、和志・頓原・吉田3地区の県有林は「県民の森」として親しまれています。



県有林管理スタッフ 原さん

事業量	今期計画 H25~H29
主伐	5.91(ha)
間伐等	127.14(ha)
植栽	4.04(ha)
下刈り	19.47(ha)
除伐	10.50(ha)
枝打ち	6.94(ha)
森林作業道	11,200(m)
木材生産量	3,647(m ³)

土打展望台から望む和志県有林

天然林

県有林の60%を占め、標高800mあたりからブナやミズナラなどが多く分布し、豊かな生態系が育まれています。

人工林

木材生産を目的に、主にスギやヒノキ、マツなどが植えられています。



間伐等で搬出した木材はできるだけ木材市場を通じて県内に流通させ、小径木や低質木など出荷できない材についてもチップ・パルプ用として販売し、木質資源の有効利用に努めています。

【カラマツスギ複層林】



1 今期計画のポイントは？

「積極的な道づくり」を進めます

間伐等で伐られた木を効率よく山から運び出すには、運び出すための道(森林作業道)が欠かせません。今期は5年間で11千mの森林作業道の開設を計画しました。森林の管理もより行き届きます。



【森林作業道】 森の奥まで入れます！



【木馬で運び出す】 斜重い丸太を載せ山の下りまでする！

2 こんなところもみてください！

実証林・展示林

県有林が目指すのは「島根の森林整備のお手本となる森づくり」。複層林など、民有林ではなかなか見ることのできない施業について、実証林・展示林として展示しています。

県有林タイムトラベル 山の現場

【森林軌道】 トロッコ10台を連結しています

昭和3年、林内から潜岩(上来島・国道54号線沿い)まで全長10kmの軌道が敷かれ、林産物の運搬が行われました。林道が登場すると、トラックが役割を担うようになりました。

平成25~29年度

管理・経営計画を策定しました

県有林は、明治10年かつて製鉄用の木炭が生産された和志(飯南町小田地内)の山林購入に始まり、136年を迎えます。これまで整備を重ね充実してきた森林から、年間780m³程度の木材生産を実施しています。

県有林を適切に管理していくため5年おきに「管理・経営計画」を策定し、人工林を中心に間伐などの森林整備を行っています。

【県有林管理スタッフ】

森林用語



虎の巻 【主伐】 伐採時期に達した木を伐り収穫します。伐ったあとには木を植え、次世代の樹木を育てます。

かんぱつ 【間伐】 混み合った森林の一部を計画的に伐り、木の密度を調整します。残した木の成長を良くし、また森全体の環境も豊かになり、病気や災害の少ない活力ある森林を育てます。

ふくそうりん 【複層林】 上層に木を残したまま下層で苗木を育てます。山が裸にならず緑が保たれたままなので表土の流出などを防ぐ効果が期待できます。下刈りなどの経費が節約できる反面、林内の光環境の調節が難しく専門的な知識と技術が必要です。